

この春卒業した第11期生 太田ももさんからの卒業レポートをお届けします。ももさんは4月から中央大学 総合政策学部 国際政策文化学科に進学します。国際文化理解に関して総合的、専門的に学びながら、文化的背景を理解し、将来は国際的なステージで活躍することを目指しています。



留学を経て、他の人より1年多い高校生活がついに終わりました。1年多いとはいえ、あっというまの高校生活でした。それは充実した4年間が送れたということの意味しているのだと思います。4年間を振り返ってみて自分の分岐点となったのは言うまでもなく海外留学でした。

中学2年生からずっと憧れていた留学というチャンスを掴み、カナダに降り立った私を待ち受けていたのは試練の日々でした。英語塾や英会話、海外旅行すら経験したこともない私は英語をほとんど話せない状態でした。学校初日、理解できたのは授業開始と終了を告げるベルと出欠確認で呼ばれる自分の名前だけ。覚悟はしていたものの、17歳の私にとってあまりにも厳しい現実でした。友達ができるまで、挨拶を除いて一言も話さない日もあり精神的にも苦しい日々が続いたときもあります。そんな中で分かったことは「自分から動かなければ何も変わらない」ということです。その時周りにいる人は自分のことをまだよく知らない人です。自分から助けを求めないと気付いてくれません。自分から行動するうちに友達も増え、毎日学校に行くのが楽しくなりました。

私の友達は本当に国際色豊かでランチタイムに自分たちの国について語りあったりするのも楽しかったです。その中でも今まで自分が持っていた偏見や印象が大きく変わり、自分の世界がすごく大きく広がった気がしました。また、自分の持っていた知識や知っていたことは本当に一部であったことに気づき、もっと物事をいろんな角度で見ようとするようになりました。このようなことは一度日本から出てみないとなかなかわからないので留学したからこそ得たものだと思います。



の応援とサポートのおかげで充実した時間が過ごせました。なかでも同級生の旭陵留学生の4人には多くの刺激をもらい、切磋琢磨しながらお互いの目標に向かって頑張ってきました。彼女たちは尊敬できる人物であり、大切な友人でもあり、出会えて良かったと心から思える存在です。留学と中津高校での生活で得たことを今後の生活でも生かし、大学生、社会人になったとき中津高校に何か少しでも貢献できるよう今後も頑張っていきたいです。

旭陵祭では応援団をつとめました。

この春卒業した留学生仲間5人と共に



将来の具体的な職業はまだ決まっていませんが、日本にとどまらず世界でも活躍できる人となるのが今の目標です。そのために、大学では特定の分野に縛られず、文学、法学、経済学など幅広く物事を学び、知識と教養を深めたいと思っています。また、2020年の東京オリンピックにボランティアとして参加するつもりです。就職後も自分のスキルアップのために資格取得などいいと思ったことは積極的にやっていくつもりです。

中津高校では多くの素晴らしい友人、先生方と出会い、たくさん

